19 年度上社連冬季研修会日程

□□□□□　講演会・講座１　□□□□□　　10:00～12:00
「社会科はどう変わるのか～改訂の要点と授業づくりの新視点～」
文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官　安野　功 先生

＊安野先生と共に語る社会科の今後

■開会式

事務局

□□□□□　講座２　□□□□□　　13:10～14:00
「年金の授業をどうつくる」
北海道社会保険事務局年金教育推進員　村瀬　眞 氏

□□□□□　講座３　□□□□□　　14:10～15:10
「07年度研究の成果と課題」

研究部

□□□□□　講座４　□□□□□　　15:10～16:10
「新春パネルディスカッション」
～各世代における「社会科」と今，求められるもの
研究部

■閉会式

事務局

＊懇親会

冬季研(午後)参加者名簿

	参　加　者　名	学　校　名	講座4のグループ	備　考
1	石井　信一	委員長・北野小学校	A	
2	山岸　勝昭	前委員長	A	
3	朝倉　信	美馬牛小学校	A	
4	丸山　隆司	士別南中学校	A	
5	笹本　宗伯	名寄小学校	A	
6	田中　和幸	東風連小学校	A	
7	中村　勝治	上富良野中学校	A	G進行
8	加藤　孝	中多寄小学校	A	パネラー
9	鈴木　伸行	東川第一小学校	B	パネラー
10	川村　寿典	富良野西中学校	B	
11	蟹谷　正宏	東川中学校	B	G進行
12	桑原　啓成	附属旭川小学校	B	
13	義光　康弘	和寒中学校	B	
14	北村　聡	忠栄小学校	C	
15	佐藤　秀人	東川第一小学校	C	パネラー
16	千葉　香織	東聖小学校	C	
17	堀　博樹	富良野東中学校	C	
18	小田島充彦	士別小学校	C	G進行
19	高橋　章友	士別南中学校	C	
20	三浦　一路	中央小学校	C	コーディネーター
21	泉　宏史	鷹栖小学校	D	G進行
22	富岡　雅人	東川小学校	D	
23	杉浦　勉	士別小学校	D	パネラー
24	今村　恭子	和寒中学校	D	
25	越野　千晶	中央小学校	D	

■講座2

「年金の授業をどうつくる」

北海道社会保険事務局年金教育推進員　　村瀬　　眞　氏

＊村瀬　　眞氏　御略歴

昭和４０年４月	旭川南高等学校，帯広三条高等学校，北見仁頃高等学校教諭を経て
平成　５年４月	北見仁頃高等学校，帯広緑陽高等学校　教頭
平成　９年４月	美深高等学校長，赤平高等学校長を歴任。平成１３年３月　退職
平成１３年４月	北海道社会保険事務局年金広報専門員として採用。
平成１９年４月	年金教育推進員に委嘱，現在に到る。

＊*MEMO*

■講座３　‘07 年研究の成果と課題

研究部　三浦

＊　みんなで力を合わせ，新研究を立ち上げてから，早１年が経とうとしています。まずは，今年度の研究もひと段落です。３年計画の１年目ということで，手探りで進んできたところが大きかったので，特に授業者やそれを支える部会の皆さんにはごくろう，ご迷惑をかけたところも大きかったでしょう。ご協力たいへんありがとうございました。
　さて，研究部としては，この冬季研を通じ，今年度の成果と課題をしっかりと振り返り，次年度以降の研究内容の深化・充実，ひいては管内社会科の充実に努めたいと思います。

＊　まずは，「学びを自分ごとに」を大きなテーマに掲げた一年でしたが，それに基づいた研究，および授業に対する小学校部会での指摘から

・（星野札部長）**札幌市連でも学びを自分事とする取り組み**をしている。**子どもがどこにいるのか？**この授業では**4人が並列になっていていいのか？**人の思いにはつながりがある。板書については**もっと構造化するとよかった**のでは？自分をどこに置くのか？

・（成田留部長）自分事としてどうとらえるのかというのは**難しい**。

・（田中校長）「自分事として」というのは、**児童に切実感を与えるだけでいいのか？児童が調べてみたい、発表したい、話し合いたい、というように思える課題をどうするのか？**ここから考えていってはどうか。そして、調査方法をどうするのか。このように考えると、以前から言われていることと大きく変わるものではないのかもしれない。

＊続いて中学校部会での指摘から

・（福澤教諭：旭川市立永山南中学校）学びを自分ごととするための学習の展開ということで、オムカレーを通して地域とのかかわりを考えるということであったが、**地域の素材としてオムカレーを使い、班（グループ）学習をすることで深めていく形はできていた。**苦手な班へのはたらきかけもあり研究の視点をしっかりとふまえた内容になっていた。しかし、今回のメインテーマは「過疎」であるということに重点を置かなければならなかったのでは。

＊　ここから見えてくるものは，北の人間力向上戦略としての「学びの自分事」と言う方向はあっているが，板書のみならず授業の構成要素を構造化することの大切さです。ここを省いて社会事象をダイレクトに自分事としようとしたあまり，「情」の追究に陥る場面もあったのだと思います。この辺りを修正し，「研究概要」５ページの視点１二つ目のかたまりの文章を書きました。より自分ごとに迫る場面を構造的にとらえながら，授業づくりを次年度進めたいと思います。

＊　次に重点的に取り組んだのが，「人間の営みへの焦点化」でした。研究部としてはあくまで社会を正しく認識するための手段であり，さらに「自分事」としてとらえるために「人間の営み」と考えましたが，

＊小学校部会の指摘から

・（田中校長）**「もの」をもってきて「人」を出す。**児童にとって見えない「人」を後から出す。実は自分に一番身近である「人」だった。（この場合は町内会長）「もの」「こと」から調べていくといずれ「人」にたどりつく。**「人」からスタートすると焦点がぼける**場合がある。

＊中学校部会の指摘から

・（丸山校長）学習課題として「どのように有名にしていくのか」というのは３時間では難しいのではないだろうか。**ゲストティーチャーの話から、自分は店をやめたことや、富良野オムカレーを扱う店が3件しかないこと、富良野オムカレーの6つの条件にこだわる理由などいろいろなところから課題を見いだすことができる。**２時間ではもったいない。

＊　まだ意識的に取り組んだ初年度ですから「人間の営みへの焦点化」は「人」自体の活用方法や単元

構成の中でどのように人をもってくるか，ということを今後さらに進化させていくことが求められます。そこで，「研究の概要」７ページ研究の視点２，最後のかたまりに学習内容と自分とのかかわりのもたせ方ということで書きました。ご検討ください。

＊　これら今年度研究の成果と課題を踏まえつつ，研究内容として次年度ぜひ意識してほしい内容をあげます。重点というには，まだ研究部内の検討もしていませんので，この冬季研で揉んでいただき，４月の総会では，研究内容とその重点をしっかりと出したいと思っています。

研究の視点１　上川や社会の魅力，可能性を生かした人間の営みの教材化

中学校部会の人間の取り上げ方はダイナミックでした。納得と共感と言いますが，子どもたちが共感すべき対象とは一体なんでしょう。共感的な理解が，人間力につながっていることを改めて考え直し，さらに「人間の営み」に絞り込みましょう。同時に，次のことと切っても切り離せません。

研究の視点１「人・もの・こと」の整理と構造的な教材化

これまでの研究成果もありますが，「人があってものがあり，ことがある（おきる）。」ということの意味を考えなくてはなりません。また，目に見える人間の努力や，工夫といった社会事象から，目に見えない「人の意志」，「やったことの社会的意味」などを明らかにしていくことが重要です。

そのために，人とものとことをより構造的にとらえ，教材化することが大切です。

研究の視点２　学習内容と自分とのかかわりのもたせ方

自分事にするための手立ては，「君ならどうする」という直接的な投げかけでよい場合もあれば，自然に自分の足元を見つめなくてはならないような展開を工夫する場合もあるでしょう。これらの手立てをこう考えたというさらに主張をもった，授業づくりが望まれます。

研究の視点２「習得・活用・探求」を意識した学習の展開

おそらく今日の講演でも話題になるでしょうし，センターの研修では以前からこの３段階を意識した研究をしていますね。新指でこの考えが主流になっていくことを考えると，上社連としても考え方を整理しておく必要があります。研究概要７ページ全体を，３段階を意識して書きました。ご検討ください。

■講座４　新春パネルディスカッション

「各世代における「社会科」と今，求められるもの」

パネリスト紹介

加藤　孝教頭先生(中多寄小学校)

管理職Ａグループからは加藤教頭先生。研究指導委員として，また監査として社連の研修を支えてくださっています。研究内容や授業への鋭い感覚でのご助言が光ります。

鈴木　伸行先生(東川第一小学校)

とても濃いＢグループは，社連のみならず上川の教育の屋台骨を支えてくださっている皆さん。Ｂからは授業づくりにも積極的に参加，助言いただいている鈴木先生です。

佐藤　秀人先生(東川第一小学校)

研究の中核として，また下の世代の良き相談相手としてのＣグループからは佐藤先生。まだまだ若い感性での教材化の視点。展開の鋭い読み。迷ったらこの人に聞け!

杉浦　勉先生(士別小学校)

次代を担うとは言わせません。もう担っているのです。だって授業者はいつもこのＤグループから…。期待の若手Ｄグループからは函館での全道提言を見事にこなしたエース杉浦先生。

コーディネーター；研究部　三浦

§　**ご意見をうかがう主な内容**　§

◆社会科の教材を見付けるためのポイントは何ですか。

◆面白い素材を見付け，機会にも恵まれ，さあ教材化！この時に何を真っ先に考えて教材化しますか。

◆ズバリ社会科の面白さは何ですか。また，教師の社会科離れもささやかれていますが，原因は何だと思いますか。

◆今後の上社連へ望むことは何ですか。

◆各グループから他のグループ世代にのぞむ校内での役割とは何ですか。

	A	B	C	D
A				
B				
C				
D				